

2024年度（第49回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	天 理 大 学	研究所名等		
研 究 課 題	東地中海地域における鉄器時代の始まりと地域社会の変容―イスラエル、テル・レヘシュの調査を軸とした考古学的研究―		研 究 分 野	文 学
キ ー ワ ー ド	①東地中海、②イスラエル、③考古学、④都市、⑤青銅器時代、⑥鉄器時代、⑦国際関係、⑧テル・レヘシュ			

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
桑 原 久 男	天 理 大 学 人 文 学 部	教 授	研究総括 都市遺跡の比較研究

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
橋 本 英 将	天 理 大 学 人 文 学 部	教 授	後期青銅器時代における金属器生産の研究
長 谷 川 修 一	立 教 大 学 文 学 部	教 授	考古学研究結果を踏まえた旧約聖書形成研究
小 野 塚 拓 造	東 京 国 立 博 物 館 学 術 研 究 部	主任研究員	土器からみた地域間交流の研究
津 本 英 利	古 代 オ リ エ ン ト 博 物 館 研 究 部	研 究 部 長	古代西アジア金属文化の研究
間 舍 裕 生	天理大学附属天理参考館 考 古 美 術 室	学 芸 員	後期青銅器～鉄器時代の都市遺跡の比較研究
増 渕 麻 里 耶	京 都 芸 術 大 学 芸 術 学 部	教 授	金属製品の考古理化学的研究

東地中海地域における鉄器時代の始まりと地域社会の変容 ーイスラエル、テル・レヘシュの調査を軸とした考古学的研究ー

1. 研究の目的

- (1) テル・レヘシュの「下の町」の発掘調査を通して、考古学的なデータから、青銅器・鉄器時代移行期についてどのような社会状況を読み取れるのかを探ること。
- (2) 土器や金属器など外来系遺物の分析を通して、後期青銅器時代のテル・レヘシュが地中海世界の国際ネットワークにどのように組み込まれていたのかを探ること。
- (3) 青銅器・鉄器時代移行期における国際的環境の激変に、テル・レヘシュを含む南レヴァントの地域社会がどのように対応したのか、その実態を探ること。
- (4) 当該期の文化を担った集団のアイデンティティに対する理解を深めること。
- (5) 青銅器から鉄器への移行という人類史上の大きな変化を、南レヴァントにおける「移行期」の社会状況の中に位置づけ直すこと。

2. 研究の計画

- (1) 東地中海地域の諸遺跡における青銅器時代・鉄器時代の様相に関する比較検討を行う。
 - ①研究論文・発掘調査報告書などを通して、各地域の遺跡の様相を把握する。
 - ②ASORなどの学会に参加し、情報収集を進める。
- (2) テル・レヘシュの現地調査を実施する。
 - ①現地協力者のイツハク・パズ博士と連携しながら、現地調査の準備を進める。
 - ②現地調査を実施し、青銅器・鉄器時代移行期のテル・レヘシュの様相の把握を行う。
- (3) 当該期のセトルメントシステムを把握するため、関連遺跡の踏査を行う。
- (4) テル・レヘシュの調査成果の検討を行い、データの情報化を進める。
- (5) テル・レヘシュ出土資料の比較検討を行い、歴史的な理解を深める。
- (6) 日本西アジア考古学会において調査研究成果の報告を行う。

3. 研究の成果

- (1) 東地中海地域の諸遺跡における青銅器時代・鉄器時代の様相に関する比較検討
 - ①年間を通して、研究論文、発掘調査報告書の検討をオンライン・ツールを利用しながら進め、イスラエルとその周辺地域の遺跡について、青銅器時代・鉄器時代の様相を把握、比較検討する取り組みを行った。
 - ②関連遺跡の報告書の収集とデータの情報化
メギドー、ベト・シャン、テル・レホヴなど、テル・レヘシュ周辺の関連遺跡について、報告書を通して情報収集を進め、情報をデジタルデータ化した。
 - ③天理大学附属天理参考館が収蔵するテル・ゼロール遺跡出土遺物のうち、鉄器時代の墓域出土の遺物の検討を行い、当時の埋葬習慣の一端を明らかにした。
- (2) テル・レヘシュ遺跡の現地調査の計画と実施見送り
 - ①8月に現地調査を実施する準備を進めた。
 - ②しかしながら、今年度は現地の情勢からイスラエル国内での現地調査を実施することができなかった。
- (3) 関連遺跡の踏査
 - ①イスラエル国内での調査に代えて、12月～1月にかけて、ヨルダンを訪問し、後期青銅器時代～初期鉄器時代の関連遺跡の踏査を行った。銅の採掘・精錬遺跡であるフェイナン地域のキルベット・エン・ナハス、テル・レヘシュとヨルダン川を挟んだ反対側に位置するテル・ジラ、テル・アブ・カラズ、テル・デア・アラなどを訪問し、同時代の遺跡の立地や出土遺構などを観察・記録することができた。
 - ②3月には、エジプト、ルクソールを訪問し、後期青銅器時代に南レヴァント地域に覇権を行使した歴代のファラオの葬祭殿を訪問し、「海の民」を描いた壁面レリーフなどを、360土カメラで撮影し、パノラマツアーとして記録した。

(4) テル・レヘシュ調査成果の検討とデータの情報化

8月に現地渡航ができなかった代替として、日本国内で集中作業を行い、テル・レヘシュの既往の調査成果について、出土土器を中心に検討を行った。12月・3月にも同様に集中作業を実施した。

(5) テル・レヘシュ出土資料の比較検討

テル・レヘシュの出土土器について、テル・レホヴ、ベト・シャン、メギドーなどの類例を探索する作業を進め、データを取りまとめた。

(6) 調査成果の報告

- ①今年度は、テル・レヘシュの発掘調査が実施できなかったため、イスラエル考古学研究会、西アジア考古学会等における報告もできなかった。
- ②3月12日に東京国立博物館で開催された研究会『西アジア・東地中海地域の後期青銅器時代を考える』にて、テル・レヘシュの調査成果について報告を行った。

4. 研究の反省・考察

テル・レヘシュの発掘調査については、2023年8月に第13次調査を実施したが、その後、帰国してまもなくの2023年10月7日、ガザ地区を実効支配するハマスがイスラエル南部のキブツ・ベエリを襲撃し、多数の住民を人質にする事件が発生し、これに伴って現地の情勢悪化が続いていた。2024年春の段階では、5月にガザ地区における停戦が発効するとの期待があり、調査計画(2)として、8月に現地に渡航して発掘調査を実施する計画(プランA)を立て、イスラエル考古局に発掘調査ライセンスを申請するなどの準備を進めた。しかしながらガザ地区における停戦が実現せず、夏期の発掘調査は見送ることにし、冬期に小規模な発掘調査を実施する計画(プランB)に切り替えた。しかしながら、2024年7月31日、ハマスの最高幹部がイランで殺害されたのを契機に、イスラエル全土の危険レベルが「レベル3：渡航は止めてください(渡航中止勧告)」に引き上げられるに至った。これによりイスラエル国内での現地調査がいつそう困難となった。

この事態により、テル・レヘシュの発掘調査の実施については断念し、予定を変更し、調査計画(3)の関連遺跡の踏査に集中し、イスラエルに近接するヨルダンなどを訪問して、現地調査を行う方針(プランC)に変更した。また、夏の現地渡航に代えて、日本国内で集中作業を実施し、12月にも再度の集中作業を実施した。3月に実施した第3回目の集中作業には、逆に、イスラエル考古局のイツハク・パズ氏を日本に招聘し、実りある作業を行うことができた。

以上、今年度の調査計画は、現地の情勢に翻弄され、イスラエル国内における現地調査は断念せざるを得なかったが、その代替として、ヨルダン、エジプトにおける関連遺跡の調査を実施することができたことは、当該研究の幅を広げる貴重な機会となった。現地の情勢が回復し、これまで培ってきたイスラエル国内における研究協力者や現地の人々の協力関係を踏まえ、テル・レヘシュの発掘調査が再開できることを願うばかりである。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

- ①間舎裕生「鉄器時代のテル・ゼロールにおける埋葬習慣―墓地出土のランプを通して―」『天理参考館報』37巻、2024年
- ②長谷川修一「続・東地中海東岸の遺跡を掘る」『古代文化』第76巻第2号、2024年
- ③Shuichi Hasegawa, The Book of Hosea and the History of Eighth Century BCE Israel. In: Brad E. Kelle (ed.), The Oxford Handbook of Hosea, Oxford: Oxford University Press, 2024
- ④Shuichi Hasegawa, History and Archaeology: The Kingdom of Judah. In: Steven L. McKenzie and Matthieu Richelle (eds.), The Oxford Handbook of the Books of Kings, Oxford: Oxford University Press, 2024

(2) 口頭発表

- ①Takuzo Onozuka “Canaanite Elites” at Tel Rekhes? An Archaeological View
研究会『西アジア・東地中海地域の後期青銅器時代を考える』Tokyo National Museum

②橋本英将「イスラエル国、テル・レヘシュ2023年発掘調査報告」

(3) 出版物

①安倍雅史・津本英利・長谷川修一編『古代オリエントガイドブック』新泉社、2024年

②長谷川修一「「イスラエル」の起源」、日本ユダヤ学会編（市川裕編集代表）『ユダヤ文化事典』、丸善出版、2024年